

## 仙台を訪れる外国人観光客の周遊行動と目的地認識の関係に関する分析

東北工業大学 学生会員 ○幾世橋哲矢  
東北工業大学 正会員 泊 尚志

### 1. はじめに

近年、日本全体のインバウンド観光客数が急増している一方で、東北地方ではそのシェアが依然として低い<sup>1)</sup>。理由の一つに、外国人に東北地方がそれほど認知されていないことが指摘されており<sup>2)</sup>、東北地方が旅行の目的地を決める際の候補にそもそも入りにくいことが考えられる。先行研究では仙台・東北を対象に、当該地域がそもそものような地域として認知および選択されているのかに基づく「目的地認識」（以下、同）が、旅行の目的地を決める際に挙がっていた他の目的地候補によって異なり、それら目的地候補は出発国・地域によって異なることが明らかにされている<sup>3)</sup>。

本研究では、先行研究の分析対象であった、「目的地認識」に対する出発地域、目的地候補の影響に加えて、周遊行動、および訪日回数が与える影響についても把握することを目的とする。

### 2. 調査概要

仙台を訪れる外国人観光客の「目的地認識」と、出発地域、目的地候補、周遊行動、訪日回数との関係を把握するため、外国人観光客を対象にアンケートを実施した。調査方法は、A4版の調査票（両面）を用いた街頭記入、および即時回収とした。調査は2018年11月、12月のうち計6日間に、松島、仙台城址の計2か所で行った。調査項目は、回答者の出発国・地域、旅行の「目的地」、すなわち仙台を訪れた際にどこを訪れていると認識しているかに基づく「目的地」（以下、同）、検討した目的地候補（旅行の「目的地」を決める際に挙がっていた他地域の選択肢）、周遊行動、訪日回数、目的地をはじめて知った情報媒体、観光目的、旅行形態、出入国港、各目的地での宿泊の有無、目的地間の移動方法である。回収数は77部であった。分析データには、本調査で回収した77部に、幾世橋・泊<sup>2)</sup>が収集した調査データ51部を加えた計128部を用いた。なお、調査

票には英語、韓国語、中国語繁体字、中国語簡体字の4種類を用意し、回答者にはいずれか1種類を選んでもらった。回答者の出発国・地域は台湾47人(51%)、米国16人(13%)、豪州15人(12%)、香港11人(8%)、中国8人(6%)、韓国7人(5%)、英国6人(4%)、などであった。

### 3. 調査結果と考察

調査データに基づいて、「目的地認識」と出発地域、目的地候補、周遊行動、訪日回数の関係性について分析した。以下では、それぞれの項目間でクロス集計を行い、独立性の検定を行った。

(1) 「目的地認識」と出発地域、目的地候補の関係  
はじめに、出発地域と目的地候補の、「目的地認識」との関係について分析した。その結果、まずは出発地域による「仙台」「東北」といった「目的地認識」への影響はみられなかった。また、「目的地認識」は旅行の目的地を決める際に挙がっていた他の目的地候補によって異なり ( $df=9$ ,  $\chi^2=20.1$ ,  $p<.05$ )、それら目的地候補は出発国・地域によって異なる ( $df=10$ ,  $\chi^2=59.8$ ,  $p<.05$ ) という結果が得られた。これは、幾世橋・泊<sup>2)</sup>を支持するものである。

#### (2) 訪日回数別「目的地認識」

続いて、訪日回数と「目的地認識」の関係について分析したが、有意差な関係は確認されなかった ( $df=4$ ,  $\chi^2=2.59$ ,  $p>.05$ )。つまり、「仙台」か「東北」かという「目的地認識」に対する、訪日回数の影響は確認されなかった (図1)。なお、訪日回数ごとの人数に着目すると、「1回目」9人(12%)、「2回目」10人(13%)と続くのに対し、「10回目以上」23人(30%)であることから、本稿調査の被験者となった仙台を訪れる外国人観光客は、訪日リピーターが多数であった。

キーワード インバウンド観光, 目的地選択, 目的地候補, 周遊行動, 仙台, 東北

連絡先 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 東北工業大学 TEL 022-305-3533

（3）訪日回数別周遊行動

さらに、訪日回数と周遊行動の関係について分析した。まず、仙台を訪れた被験者の多くは「東京」を訪れていることが分かった。また、訪日回数と周遊行動との関係には有意差が得られ ( $df=34, \chi^2=69.8, p<.05$ )、訪日回数によって周遊行動が異なることが分かった。訪日回数の多少を4回以上と3回以下に分け、仙台と共に訪れた地域に着目すると、訪日回数が少なければ、東京・京都・大阪などといったガイドブック等で多く取り上げられる日本の有名な観光地を、訪日回数が多ければ、東北地方各地を、特に「山形」へ訪れる傾向があることも分かった（図2）。

（4）「目的地認識」別周遊行動

最後に、「目的地認識」と周遊行動の関係について分析したが、有意差な関係は確認されなかった ( $df=14, \chi^2=19.03, p>.05$ )。つまり、周遊地域の差異による、「仙台」か「東北」かという「目的地認識」への影響は見られなかった（図3）。

4. 結論

本稿では、仙台を訪れる外国人観光客の「目的地認識」に対して、出発地域、目的地候補、周遊行動、訪日回数が与える影響を把握するために街頭調査を行った。分析の結果、以下の点が明らかになり、その関係は図4に整理される。

- ・ 出発地域による「仙台」「東北」といった「目的地認識」への影響はみられなかった。また、「目的地認識」は旅行の目的地を決める際に挙がっていた他の目的地候補によって異なり、それら目的地候補は出発国・地域によって異なる。
- ・ 訪日回数による「目的地認識」の差異は見られなかった。訪日回数によらず、「仙台」へ訪れていると認識している観光客が多かった。
- ・ 訪日回数によって周遊行動が異なる。仙台と共に訪れている地域に着目すると、訪日回数が少なければ、東京・京都・大阪などといった日本の有名な観光地を周遊し、多ければ、東北地方各地を訪れる傾向にある。
- ・ 周遊地域の差異による、「仙台」か「東北」かという「目的地認識」への影響は見られなかった。

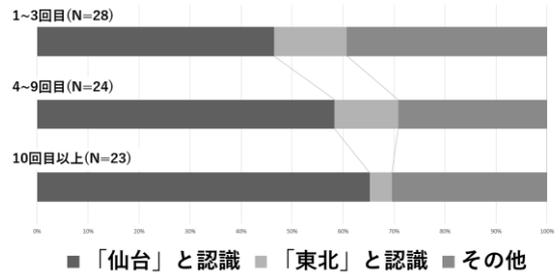


図1 訪日経験回数別目的地認識 (N=75)

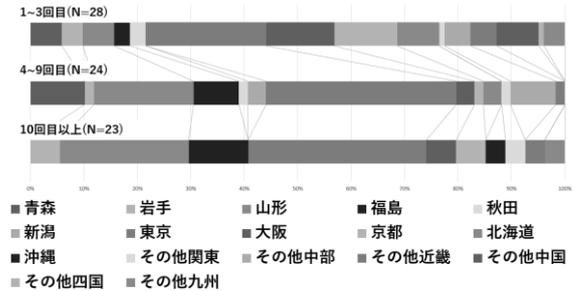


図2 訪日経験回数別周遊行動 (N=75)

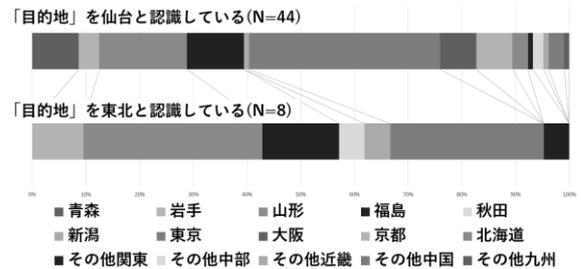


図3 目的地認識別周遊行動 (N=52)

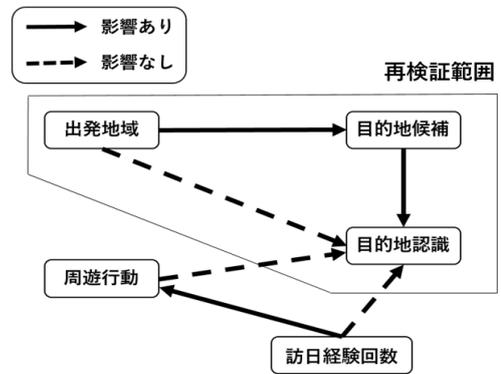


図4 分析結果における各項目間の関係整理

参考文献

- 1) JNTO：月別・年別統計データ（訪日外国人・出国日本人）  
[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor\\_trends/index.html](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html)
- 2) 仙台市：市内外国人宿泊者数統計 2018  
<http://www.city.sendai.jp/inbound/jigyosha/kezai/gaikokujin/toke.html>
- 3) 株式会社日本政策投資銀行 東北支店：2018 東北インバウンド意向調査  
[https://www.dbj.jp/ja/topics/region/area/files/0000032336\\_file2.pdf](https://www.dbj.jp/ja/topics/region/area/files/0000032336_file2.pdf)
- 4) 幾世橋哲矢, 泊尚志：仙台を訪れる訪日外国人観光客の目的地認識に関する基礎的研究, 土木計画学研究・講演集, Vol.57, 2018.